

「自分の妻を愛しなさい」

2005.9.4 赤羽聖書教会主日礼拝説教

21. キリストを恐れ尊んで、互いに従いなさい。

22. 妻たちよ。

あなたがたは、主に従うように、自分の夫に従いなさい。

23. なぜなら、

キリストは教会のかしらであって、ご自身がそのからだの救い主であられるように、夫は妻のかしらであるからです。

24. 教会がキリストに従うように、妻も、すべてのことにおいて、夫に従うべきです。

25. 夫たちよ。

キリストが教会を愛し、教会のためにご自身をささげられたように、あなたがたも、自分の妻を愛しなさい。

26. キリストがそうされたのは、

みことばにより、水の洗いをもって、

教会をきよめて聖なるものとするためであり、

27. ご自身で、しみや、しわや、そのようなものの何一つない、

聖く傷のないものとなった栄光の教会を、ご自分の前に立たせるためです。

28. そのように、夫も自分の妻を自分のからだのように愛さなければなりません。

自分の妻を愛する者は自分を愛しているのです。

29. だれも自分の身を憎んだ者はいません。

かえって、これを養い育てます。

それはキリストが教会をそうされたのと同じです。

30. 私たちはキリストのからだの部分だからです。

31. 「それゆえ、人はその父と母を離れ、妻と結ばれ、ふたりは一心同体となる。」

32. この奥義は偉大です。

私は、キリストと教会とをさして言っているのです。

33. それはそうとして、

あなたがたも、おのおの自分の妻を自分と同様に愛しなさい。

妻もまた自分の夫を敬いなさい。

説教

使徒パウロは、「教会がキリストに従うように、妻も、すべてのことにおいて、夫に従うべきです。」と、まず妻に勧めます。ここで言うところの「従う」とは、「下に身を置く」という意味で、権力者に国民が服従するとか、奴隷が主人に服従するといったような明確な権力関係の「服従」を意味します。相手よりも自分の身を低いところに置いて、相手に服従するのです。「すべてのことに於いて」の別訳は、「万事に於いて、あらゆることに於いて、どんなことに於いても、あらんかぎり、1つも欠けが無く」です。初代教会の信徒たちが自分のいのちを賭けてイエスさまに従ったように、ちょうどそのように、キリスト者の妻たちが夫に従うよう、パウロは勧めるのです。

そうして、次に、パウロは、夫たちに対してこう命じるのでした。

25. 夫たちよ。

キリストが教会を愛し、教会のためにご自身をささげられたように、あなたがたも、自分の妻を愛しなさい。

これは明確な命令形です。妻への言及が「教会がキリストに従っているように、そのように、すべてのことに於いて女たちは男たちに。」(直訳)となっていて、「従え」とも訳せるし、「従った方が身のためだ」とか、「従えば、祝福があるよ」とか、「従うことが、キリストのみこころだ」、「従う人生はすばらしい」等々、要するにいかようにも訳せて、妻が夫に従うことは、命令というより、それがキリストのみこころにかなう人生なのだというような「教え」なのに対して、夫への言及は、はっきりと、「妻を愛しなさい。」という命令形になっています。つまり、これは、そうしてもなくてもいいものではなく、そうした方が身のためだとか御利益があるといったようなものでもなく、パウロが有無も言わず命じている命令なのです。男たる者、自分の妻をめとった以上、必ずやそうしなければならない、という命令なのです。そのようにしなければ神の掟に背くことになるという命令なのでした。

「自分の妻を愛しなさい。」の「愛する」と訳されている原典のギリシャ語は、「アガペー avgaph」の動詞形です。ギリシャ語で「愛」を表現する言葉は大きく三つあります。一つは「エロス」の愛です。これは要するに「自分に無いものを求める」ことを意味します。例えば、男が女を求める、反対に女が男を求めるという場合の恋情です。単純に表現するならば、これは相手から貰おうとする愛と言えるでしょうか。二番目は「フィリア」の愛です。これは「兄弟愛」などと訳されます(ちなみに地名の「フィラデルフィア」とは、「^兄フィル+^弟アデルフィア」で「兄弟愛」の意味)。単純に図式化するならば、「貰って、与える」関係と言えるでしょうか。これら二つに対し、「アガペー」の愛は、自分が貰うことを全く考えずに「与える」関係を意味します。新約聖書、ギリシャ語「アガペー avgaph」の概念は、もともと旧約聖書に出てくるヘブル語「アハブ bhea'」と「ヘセド ds,x,」に由来します。「アハブ bhea'」は、神さまの一方的な無条件の「選びの愛」を意味します。「**主があなたがたを恋慕って、あなたがたを選ばれたのは、あなたがたがどの民よりも数が多かったからではない。事実、あなたがたは、すべての国々の民のうちで最も数が少なかった。しかし、主があなたがたを愛されたから、.....主は、力強い御手をもってあなたがたを連れ出し、奴隷の家から、エジプトの王パロの手からあなたがたを贖い出された。**」(申命記 7:7,8) 何一つ取り柄がないのに、何も良いところがないのに、それでも神さまはイスラエルをエジプトから救い出されました。そして、御自身の民として世界の祝福の基に据えてくださったのです。どうしてでしょうか?それは、神さまがイスラエルを選ばれたからです。神の民にしようとして特別に選ばれました。イスラエルの側に愛される何の理由もないのに、事実、神の目にも人の目にも、取るに足りない者であったというのに、「**あなたがたは、すべての国々の民のうちで最も数が少なかった**」にもかかわらず、「**しかし、主があなたがたを愛されたから.....エジプトの王パロの手からあなたがたを贖い出された**」のでした。それが「アハブ bhea'」です。それは、神さまの一方的な愛です。無条件の愛です。如何なるものにも制限されたり邪魔されることのない、ただ神さまだけがおひとりですら決めて事をなされるという、そして、一度決めたら誰も覆すことができない、「無条件の愛」、「絶対的な愛」です。「選びの愛」です。

また、「ヘセド ds,x,」は、おもに「あわれみ」「いつくしみ」「恵み」「誠実」「不動の愛」などと訳されます。それは、「イスラエルのあらゆる反逆と不従順にもかかわらず、それでも大いなるあわれみを示した、執拗で、断固とした、契約の愛」を意味します。どんなにイスラエルが神さまに背いても、神さまを裏切っても、それでも神さまはイスラエルを愛し続けます。それで、イザヤ書 54章8節では「永遠の愛」、「永遠の憐れみ」、「永遠に変わらぬ愛」と言われています。以上のような「アハブ bhea'」「ヘセド ds,x,」という旧約の「愛」の概念を、新約では「アガペー avgaph の愛」として訳しました。ちなみに、「アガペー avgaph の愛」という言葉の新約聖書での用例を調べてみると、いくつかのパターンに分けられます。

まず、単純に、一般的な意味での「好む、願う」を意味する場合に使われます。例えば、こういう場合です。「市場であいさつされることが**好き**です。」「神からの榮譽よりも、人の榮譽を**愛した**」「デマスは今の世を**愛し**、私を捨ててテサロニケに行ってしまう」「一方を憎んで他方を**愛したり**」「不義の報酬を**愛した**ベオルの子パラム」「世をも、世にあるものをも、**愛して**はなりません。も

しだれでも世を愛しているなら、その人のうちに御父を愛する愛はありません。」このような場合には、ただ単純に一般的な意味での「好む」とか「願う」といった意味になるでしょう。

また、「生きることを願う」という意味での「いのちを愛する」「いのちを惜しむ」という表現にも、この「アガペー-agape」という言葉が使われます。「いのちを愛し、幸いな日々を過ごしたいと思う者は、舌を押えて悪を言わず、くちびるを閉ざして偽りを語らず」(ペテロ 3:10)「兄弟たちは、小羊の血と、自分たちのあかしのことばのゆえに彼に打ち勝った。彼らは死に至るまでもいのちを惜しまなかった。」黙示 12:11

しかし、それ以外では、自分を愛してくれない者を愛する、自分の敵を愛する、罪人を愛する、一方的にその人を愛すると決めて愛する、何があっても変わらず愛する、犠牲を払い、いのちを捨てて愛する、といったような場合に、使われています。例えば、「『わたしはヤコブを愛し、エサウを憎んだ。』と書いてあるとおりです。」(ローマ 9:13)と言われる場合、それは、神さまが、ヤコブとエサウの生まれる以前から、既にヤコブを愛すると決めておられたことを意味します。それは、選びの愛です。神さまが一方的に愛すると決めて愛される愛です。また、イエスさまが、山上の説教の中で、「自分の敵を愛し、迫害する者のために祈りなさい。……自分を愛してくれる者を愛したからといって、何の報いが受けられるでしょう。」と言われる場合、それは、文字通り、自分を愛してくれる者を愛するというのではなく、自分を愛してくれない者を愛する、自分に敵対する者を愛する、自分を迫害する者を、自分の敵を愛する、ということになります。

ユダヤ人から差別されている異邦人の百人隊長が、「この人は、私たちの国民を愛し、私たちのために会堂を建ててくれた人です。」(ルカ 7:5)と言われる場合、自分はユダヤ人から差別されながらも、自分を差別しているユダヤ人を愛して会堂を建ててあげた、ということになります。

それは、自分を愛してくれない者を愛する愛です。自分に逆らう者を愛する愛です。要するに、自分の敵を愛する愛です。また、使徒ヨハネが「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」と言う場合、あるいは、使徒パウロが、「しかし私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死んでくださったことにより、神は私たちに対するご自身の愛を明らかにしておられます。」(ローマ 5:8)と言う場合、それは、私たちが「罪人」で、神さまに敵対する者であったにもかかわらず、そのような罪深い、神の敵であった私たちのことをも見捨てず、むしろ愛して、父なる神さまは、御自身の御子イエスキリストさまを私たちのところに遣わし、私たちの身代わりとして御子イエスさまを十字架につけて殺し、私たちの罪を贖ってくださったということを意味します。

「世の富を持ちながら、兄弟が困っているのを見ても、あわれみの心を閉ざすような者に、どうして神の愛がとどまっているでしょう。」と使徒ヤコブが言い、「人がその友のためにいのちを捨てるという、これよりも大きな愛はだれも持っていません。」とイエスさまが言われる場合、これらのみことばは、愛する者のために「犠牲を払い」、「いのちを捨てる」、そのような愛を意味します。そして、イエスさまは、実際に、現実に、御自身のいのちを捨てて、犠牲を払って、私たちに罪から救い出し、私たちに永遠のいのちを与えてくださったのです。

「私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、なだめの供え物としての御子を遣わされました。ここに愛があるので。」「神はそのひとり子を世に遣わし、その方によって私たちに、いのちを得させてくださいました。ここに、神の愛が私たちに示されたのです。」イエスさまは、実際に、現実に、御自身のいのちを捨てて、犠牲を払って、私たちに罪から救い出し、私たちに永遠のいのちを与えてくださったのです。そうやって、私たちに、「愛」を、「アガペーの愛」をあらわしてください

ったのです。

これが、「アガペーavgaph」の愛です。その意味を整理すると、普通に「好き」ということであり、一方的に愛すると決めて愛する、「選びの愛」です。あるいは、自分を愛してくれない者を愛する、自分に逆らう、敵対する者を愛する、自分を迫害する者を愛する、自分の敵を愛する、ということです。愛する者のために「犠牲を払い」、「いのちを捨てて」、そのいのちを助け出す、それが「アガペーavgaph」の愛です。使徒パウロの言う「アガペーavgaph」の愛の意味です。

ですから、使徒パウロがここで「**夫たちよ。キリストが教会を愛し、教会のためにご自身をささげられたように、あなたがたも、自分の妻を愛しなさい。**」 「妻を愛しなさい」と言う場合、それは、自分の妻を普通に「好き」になり、妻を自分の一生涯愛する伴侶と一方的に決めて愛し、妻が自分を愛してくれる時に妻を愛することは勿論のこと、たとえ妻が自分を愛してくれなくても、自分の言うことを聞かなくても、自分にあからさまに逆らっても、自分に敵対しても、自分を迫害しても、自分は妻を愛し、妻のために「犠牲を払い」、「いのちを捨てて」、そのいのちを助け出す、それがここで使徒パウロが「**あなたがたも、自分の妻を愛しなさい。**」と命じているところの正確な意味です。

そして、パウロは、その「愛する」模範がキリストのうちにあると言います。「**キリストが教会を愛し、教会のためにご自身をささげられたように**」そのように「**あなたがたも、自分の妻を愛しなさい。**」と言います。「**キリストが教会を愛し、教会のためにご自身をささげられたように**」それと同じように、それを模範とし、それを基準とし、それを目標として、「**キリストが教会を愛し、教会のためにご自身をささげられた**」そのように「**あなたがたも、自分の妻を愛しなさい。**」と仰うのです。「**キリストが教会を愛し、教会のためにご自身をささげられた**」これは過去形で、ただ一度歴史上そうされた事実をあらわします。キリストは教会を愛されました。そして、教会のために、すなわちイエスさまを信じる私たちのために御自身を捧げられました。これは事実であります。「**ご自身をささげられた**」と訳されている言葉の直訳は、「御自身を引き渡された」です。この意味は紛れもなく「死刑になって殺される」ことを意味します。つまり、「**教会のためにご自身をささげられた**」とは、本来は教会が死刑になって殺されることを、教会を助けるため、教会の身代わりになって、イエスさまが「死刑になって殺された」ことを意味します。そうやって、教会のいのちを地獄の滅びから救い出されたことを意味するのです。これが「キリストの愛」です。キリストの「アガペーavgaph」の愛です。それは、無条件の愛です。一方的に初めから愛すると決めて愛された、絶対的な、選びの愛です。イエスさまは言われました。「**あなたがたがわたしを選んだものではありません。わたしがあなたがたを選び、あなたがたを任命したのです。**」

また、敵を愛する愛です。イエスさまは、御自身に従う者を愛されたのではなく、御自身に逆らう者を、愛されました。御自身に敵対する者を、御自身を迫害する者を愛されたのです。「**私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死んでくださったことにより、神は私たちに対するご自身の愛を明らかにしておられます。**」これがイエスさまの愛です。それは、敵を愛する愛です。

そして、イエスさまの愛は、「愛する者のために犠牲を払い、いのちを捨てる愛」でした。「**人がその友のためにいのちを捨てるという、これよりも大きな愛はだれも持っていません。**」と言われたイエスさまは、そう言われたイエスさま御自身が、「**教会のためにご自身をささげられた**」、すなわち、本来は教会が（私たちが）死刑になって殺されることを、教会を助けるため、教会の身代わりになって、イエスさまが「死刑になって」死んでくださいました。そうして、私たちのいのちを、地獄の滅びから救い出してくださいましたのです。

これがキリストの愛です。キリストの「アガペーavgaph」の愛です。このキリストの愛は、歴史上、ただ一度だけあらわされました。

その歴史上過去に於いてただ一度あらわされたキリストの愛、それを今の時代に、今の時に、今の自分の家庭に於いてあらわすようにと使徒パウロは夫に命じるのでした。

「夫たちよ。キリストが教会を愛し、教会のためにご自身をささげられたように、あなたがたも、自分の妻を愛しなさい。」この「キリストが教会を愛し、教会のためにご自身をささげられたように」の「ように」とは、「それと同じように」という意味ですが、先にも述べたように、それを模範とし、それを基準とし、それを目標として、夫は妻を愛せ、というようにも読めますが、しかし、私たちは、もっと踏み込んで、このみことばを理解する必要があると思います。すなわち、キリストが教会を愛されたことは、机上の空論でも、単なる空想や妄想ではありません。「キリストが教会を愛された」「教会のためにご自身をささげられた」これは歴史の事実なのです。教会が現に過去に於いて受けた恵みの事実です。つまり、現実、イエスさまを信じる私たちが、「キリストに愛された」のです。キリストは、私たちのために死なれたのです。だから、私たち教会は、キリストの「アガペーavgaph」の愛を現実に受けたのです。

だから、そのキリストの「アガペーavgaph」の愛を知っているのだから、キリストの「アガペーavgaph」の愛を現実に受けたのだから、それを自分の妻にあらわす、ということになるでしょう。妻は、いのちを賭けて自分の夫に従わなければなりません、夫は、自分の妻のために自分のいのちを犠牲にして、死ななければなりません。注目すべきことは、妻に対しては、夫に従うよう勧めているのに対し、夫に対しては、妻を「従えよ」とは命じていないことです。パウロは、子どもに関しては、従えるよう言っている（テモテ3：4）のに、妻に関しては、夫に妻を従えよとは命じていないのです。むしろ、妻を「愛する」よう命じるのです。妻が従っても、愛する、妻が従わなくても、愛する、愛して、愛して、愛して、夫に愛されて、妻は養われていく、というのがパウロの教えなのです。キリストが私たちのために死なれたそのいのちの代価をもって、私たちは滅びから救われ、永遠のいのちの望みに与る者となりました。そのように、自分のいのちを犠牲にしたその夫の愛によって、妻は養われ、喜びと感謝に満たされて夫に従い、神の栄光をあらわすのです。ここに集うみなさんひとりひとりが、束の間の人生、神さまが与えてくださった家庭を大切に、みことばの通りに行き、神の栄光をあらわす良き家庭を築いていかれるよう、主の御名により祈ります。